

阪神大震災の体験

I (95・3・18)

渡辺 寿男(昭15・理甲)

今度の大地震につきましては、皆様方に大変ご心配を頂きまして誠に有難うございました。今日はお世話人の指図によりまして、暫く私の体験しました震災の状況や印象につきまして申し上げますと存じます。

先ず私の住んでおりますのは、神戸市中央区丁R新幹線の「新神戸駅」の東側でございまして、災害がひどうございました都心の三ノ宮の山ノ手の斜面に住んでおるわけでございます。同時に下川さんとは同じ熊内町という極く至近距離でございます。ですから、下川さんと私とは同じような経験しているわけですが、私はマンションに住んでおりまして、下川さんは古くからの立派な日本建てのお住まいですので、若干経験が違つかというふうに思っております。

このたびの震災についての私の印象をひとことで申しますと、大都市の直下型地震というものは、非常に凄まじいものであるということでございます。揺れ始めました時、私はまだ寝ておりました、寝惚けまなこで「一体これは何や」と思い、そのほか何も頭に浮かびませんでした。次

に、この直下型の断層地震というのは、極く近い距離でも、震度に大きな差があるということを感じました。三ノ宮元居留地というところは、JR、各民鉄の三ノ宮駅を中心とする神戸のビジネスセンターでございますが、その辺りはテレビでもご覧の通りビルが非常に沢山壊れておりまして、被害甚大でございます。ところが、そこからちよつと西の方へまいりますと、昔からの商店街、元町通りなどは比較的被害が軽いのです。また須磨区でも山の麓から海岸までの斜面は被害甚大でございましたが、山を削りまして新しく住宅地を造成いたしました高倉台という所がございますが、標高三百メートル位の山を崩してしましまして、標高約百何十メートル位の所に住宅地が出来ております。元来造成前には地下の相当な深さだったところだからでしょうか、全くと言っていい程無傷に近いという状況でございました。

次に地震の揺れ方でございますが、初期上下動が非常に強く（私は建築は専門外でございませぬので、全く素人の考えでございませぬが）鉄筋コンクリート柱の座屈による被害が多かったように思います。テレビでご覧の通り、ビルのワンフロアーが壊れてしまうというような現象が至るところに見られました。一方、木造家屋でも一階が崩れて、二階がそのまま、形を残しているというような所が非常に多いのです。これに反して屋根が軽く壁が強い、所謂、ツーバイフォア工法の家は、家の内はともかく、外観は無傷のような状態でポツンと廃扱の中に建っているという所が沢山ございました。

建物以外の被害の状況でございますが、家屋内では家具が倒れたり、陶磁器やガラスが破損し散乱しました点は外観に関わらず、全地域共通でございます。当地では誰もご同様のこととして、いうならば無事というふうにみなされている状況でございます。ケガの方も同様でございます。都心の病院や医院などは、電気、ガス、水道は勿論止まっておりますし、内部は医療機械が破損散乱いたしております。それに交通が途絶しておりますので、医者、スタッフは集まりません。従いまして機能はマヒしておりましたから、命に関わる重傷以外はケガの内に入れてもらっていないというような状態でございました。

次に報道についてでございますが、以上のような被害の状態を、皆様テレビあるいは新聞でご覧頂いたと思います。各報道機関共によくやっておったと思いますけれども、しかし報道機関とてオールマイティではございませんから、報道の対象が特定の場所に集中してしまふ、つまり、取材しやすい場所に集中してしまひまして、取材の難しい場所、あるいは取材を拒絶されるような険悪な雰囲気の場合などは、報道の対象から取り残されていたような気がいたします。ですから、避難所でも、土地柄的レベルも高いし、経済レベルも高く、そして報道陣にも協力的な東灘区本山第二小学校、ここは木下さんの近くでしょうか、あの辺りはテレビに随分何度も出てまいりました。又、火災の方にしましても、長田区に御蔵菅原商店街という言葉で、ご記憶の方もいらつしやるかと思いますが、ここは歴史の古い老舗の多いおっとりとした雰囲気の世界商店街

でございませうが、そこに報道が集中しておりました。そこからちよつと西の方で、同様に全面的に焼けた所があるのですが、そちらの方面は殆んど、インタビュー報道がなされておられません。被災者の生活やボランティアの活動についての報道も同様でございまして、神戸とか、あるいは阪神間という土地柄でございまして、実際に報道されたような助け合いの美談は大変多く、私自身も多かれ少なかれ、体験致しましたことは事実でございませう。しかしながら、醜いお話が無であつたわけではございませう。そういうふうなことは、いろんな意味で報道が避けられたのか、あるいはそういう所まで手が廻らなかつたのか、どちらかではなからうかと思ひます。さらに昨今、日が経つにつれまして、醜い話が増えまして、きれいな話は減りつゝあるというのが実情だと私は思つておられます。

次に地震後から只今までの二カ月の生活でございませうが、要するにライフラインに關したことを申し上げませう。その中の電話ですが、これは場所によつては通話が可能でございませう。娘が市内に住んでおられますが、終始通話可能でございませう。市外通話につきましては、私も皆さんから沢山のお見舞の電話やお便りを頂戴いたしました、そのお話を總合いたしますと、神戸市内から市外への電話が通じ易く、市外から神戸へは、見舞い電話の集中などもありまして、非常にかかりが悪かつたようでございませう。息子が横浜に住んでおりました神戸へ電話が通じないで心配していたらしいのですが、私の方から無事を知らせる電話を入れまして、ようやく安心した

ようでした。それから電気でございますが、幸いなことに私共の所には、当日の日没時に送電されました。停電と同時に冷凍庫の食品を、発泡スチロールのアイスボックスの中へと、全部放り込むという仕事を朝一番からやりましたが、お蔭で夕方の送電によりそれを元に戻すことが出来まして、当分の間の貯蔵の食料というものには、不自由をいたしませんでした。

それから水道でございます。これもマンション生活の有難さで、特にマンションの屋上の水槽が無事でございますために、地震直後にすぐに風呂一杯の生活用水を取り、またあらゆる鍋、釜類に飲料水を確保しました。屋上の水槽の水はたちまち無くなりまして、その後は、約一カ月近い断水状態でございました。その間の生活では、水がいかに都会生活には重要であるかをイヤという程痛切に思い知らされました。中でも一番簡単に申しますとトイレです。とにかく、このためには絶対水が必要です。その昔にベストセラーになりました山本七平さんの「日本人とユダヤ人」という本に、日本人は水と安全とをただだと思っているという名セリフがありました。全くその通りでした。それで、水をどうするかと申しますと、これは有難いことに、翌日の朝から近くの小学校へ全国からの給水タンク車がやってまいりまして、大ヤカンを持って飲料水ももらいに行きました。翌日は横浜市水道局、翌々日は松山市水道部というふうに全国から給水タンク車が駆け付けてくれておりました。また生活用水の方ですが、これも大変恵まれておりましたのは、私の住まいのすぐ近くに、神戸市水道局の熊内浄水場クマノがございまして、そこが道路側溝へ

きれいな水を流してくれました。それをバケツで汲みに行きまして、約百米位をバケツ両手にぶら下げて持って帰るのです。この作業では、マンションのことでございまして、エレベーターが止まっておりますので、階段を持って上がるのに一番苦勞をいたしました。そのうち横浜の息子夫婦が駆け付けてくれ、その肩代りなどをしてくれましたが、何れも仕事を持っておりますので、長期間滞在する訳にはまいりません。幸いに市内に住む娘の家が水道やガスが出るようになりましたので、そちらの方に私共夫婦避難をいたしましたして、水が出るようになりましてから戻ってまいりました。

次はガスですが、電気の方は、これは電力会社の方から伺いましたが、電気は強行送電をしても、それ程の危険はないとの判断で電線路についても、テスト送電をする程度で完全に末端までの巡回点検をしないで送電がありました。けれどもガスの場合はそうはいきません。うっかりガス洩れなどがありますと事故故になります。高圧管、中圧管と順番に道路を掘り返して点検して、さらに各家庭内の点検を終わってはじめてガスが送られました。私の家のような大変便利などころでも、復旧は震災後丁度一カ月後でしたが、これは市内では比較的早く、恵まれたほうでした。ガスのない場合、料理などはボンベの付いた携帯コンロで出来るのですが、お風呂には非常に苦勞をいたしました。娘の家の風呂に入りに行くのですが、中央区JR「新神戸駅」の近くの私宅から、須磨区の娘の家にまいりますのは、交通渋滞、迂回などで最初は三時間位かかり、往復

が大変でございました。

ライフラインとして未だに復旧していない最大のものが交通でございます。ここには地図がないのでちょっとおわかりにくいかと思いますが、神戸市中央区という私共の住んでおります所は、当初完全に交通途絶し、孤立をいたしました。道路が倒壊建物の瓦礫、材木などで足の踏み場もなく、車が全く通れない状態でございます。公共交通機関はと申しますと、これはもう高架線、地下線とも、鉄道全部が随所に崩壊しております。バスは道路がダメで通りません。孤立した中央区へ一番最初に開通いたしましたのは、六甲トンネルを通りまして、北から新神戸へ入ってくる北神急行電鉄でした。

中央区と大阪とを結ぶルートで最初に利用可能になりましたのは、この新神戸からトンネルを抜けまして、神戸の北側をずうっと電車で迂回し、三田という町に出まして、三田から福知山線で大阪へ出るというルートでした。現在も大阪と神戸間は、まだ鉄道が繋がっておりません。道路も阪神高速道路は崩壊しており、国道2号線、43号線は緊急車輛しか通しませんので、乗用車は灘区、東灘区を通り抜けることが極めて困難です。僅かに鉄道代替のバスだけが優先的に、緊急自動車と一緒に通っている状態でございます。

西神戸につきましては、長田区、兵庫区は火災と倒壊のために道路が塞がり交通が約一週間位途絶をしておりました。この間に、例えば私の知り合いも、東京から西神戸へ来るのに、飛行機

で岡山へ行つて、岡山から姫路へ新幹線でバックして、震災翌日開通しておりました山陽電鉄で明石まで、明石からは自前の車を調達して西神戸へ入ったと言つておりました。現在、その状態は次第に改善されつゝ、ありますが、相変わらず道路事情は、渋滞、迂回の繰り返して未だに充分ではございません。

こういうライフラインというものは、平素は空気のように思つておりましたが、止まった状態を体験してみて、はじめていかに大事であるかということを感じました。

私のように隠居をしております、仕事に出かけない者でも随分不自由を感じておりますのに、毎日仕事を持ち通勤している人達は今もライフラインについて非常に苦勞をしております。

以上、私の経験を通して、総括的なお話をさせていただきました。これで終らせていただきます。
(元山陽電気鉄道㈱社長、会長)

木下 正夫 (昭15理甲)

昭和15年理甲一の木下でございます。今、大体渡辺君からまとまった説明がありましたので、私は、自身の体験談をお話させていただきます。

私、最近レントゲン検査 (CTスキャンニング) の結果、脳血栓の気がございまして、自覚し

て出来るだけお茶を飲むようにし、サラサラとした血液になるように心掛けております。夜中でも何回か今迄よりも早く目覚めます。十七日の地震の日も、早朝二時過ぎに一回目覚め、例のようにお茶を飲んで小便に行きました。その次は五時三十五分位に目が覚め、例によってお茶を飲んで便所へ行きました。そして床に入りウトウトとしていたんです。一番初めのひどい揺れの上下動の時は気がつかなかったんですが、少し経って「これはおかしい、地震だな」という気がしたんです。所で最近の私ですが、自分で考えてもおかしい程身辺整理をしていたんです。後片づけをしておかないと、私がいなくなった時に困るだろうと思ひ、本棚を片づけたり掃除をしたりして、見れば誰が見ても判るようになっていました。地震十分程前に目が覚めたものですから、自分の書齋に行き、ズボン・上衣をつけて、部屋に戻ります。恐らく予震に近い揺れを感じていたと思うのですが、身体が震えているのがわかりました。地震が終り、起きようと思すと、何と家内と私は床を別にし日本間に寝ているのですが、三面鏡や衣紋掛けが倒れているんです。すぐに起きられなくて、やっと何とか倒れている物を除いて起きました。

最初の時、何事もなかって着替えて出られた書齋に再度行ってみると、中には入れない程、三方から本箱が倒れてきておりました。あの時、よく時間があつたなあという気がしました。部屋に入っても何も出来ない、動くことも出来ない位の荒れ様でした。そのような状態の中でも、私の家は、ナシヨナルが建てた2×4で、十二年目です。応接室に入る戸が閉まりにくくなってい

た外は、建具は全部完全に開閉が出来ました。

私の家で一番困ったのは電気でした。電話は通じたが、自分の家からかけると逆に通じませんでした。二男と孫の二人とが車で私の家、自分の家を見て廻り、どうも私の家の荒れ様が一番ひどい。放っておいたら年寄りだからということ、甲子園に無理無理避難させられました。家中の混乱もそのままにして来たので、一日も早く帰りたいと気になっていたわけです。

電気が私の家に来たのは二週間後の二月一日でしたが、勿論水道が出ないものですから、風呂が使えません。親戚の家に行こうと思ったのですが、どうも気兼ねをするからと思ひ、尼ヶ崎の駅前に「尼湯」という、風呂屋さんがありまして、昼の間は湯に浸って、昼飯、夕飯でも喰って帰れる所です。水道の出ない間は一週間に一回位は通っております。ガスが使えるようになったのは、三月七日からです。

私の家は地盤の低い所に植込みをその儘にして順番に上へ上へと建ててきたものですから、前栽の家に近いブロック壁が全部倒れてしまい、これらの復旧をどうしようかと悩んでいます。私の住まいの一角は、誰も住んでいません。今日も家の南側の家を潰しております。

私の家は外観も内側も完全で、ただ少し西に移動したというような状態でした。やっと最近になって、ライフラインが使えるようになったというのが現状です。

(佛神戸製鋼所社友)

下川 栄一（旧姓・川嶋）（昭15理甲）

神戸を今日はいつもより早く出たんですが、15分程遅刻しました。いつもですと、南座へ来る時は一時間半みておけば充分でした。

今日は三時間位かかるだろうかと考えて、家を十一時半頃に出ました。地震のあと交通機関の一番最初の再開は、阪急が三ノ宮から西宮までバスを通したということが始まりでした。多くの人は大阪までこれを利用したんです。私もこれを一度体験しようと思って、今日は、阪急が御影まで通っていますので、そこ迄阪急で来まして、御影からバスで西ノ宮へ来る。西ノ宮から阪急に乗り換えて京都まで来たんです。やっぱり三時間超えました。結局罹災直後は、三ノ宮から大阪へ通った人は、えらい交通トラブルに巻き込まれたわけです。今日もかなり国道2号線は混んでおりました。今度の震災では、神戸は東と西から縁を切れ陸の孤島となって、交通事情は困まった状態が長くつづきました。

それから次にライフラインですが、私の家族構成は家内と二人だけなんです。家内が二年前に足の大腿骨を折りまして、手術をしましたが、完全に元に戻らず早く言えば、ピッコという状態なものですから、老人がこの様な老妻をかかえて被災の中を生きてきたわけです。

水に關してですが、給水車が来るたびに小学校の校庭に並んで、その水を運ぶことになり肉體

労働の連続だったんです。トイレの水にはそのまま使うのはもったいないですから、近くに生田川という川が流れていましてこれを使うことにして、そこからの水運びも一週間、十日位は続けました。三高の文甲に中谷大吉という男がおるんですが、この男が見舞の電話をよこしたんで、私が「今、すごく苦勞してるんだ、自分の身体だけが頼りだ」と言うのと、「すべて、肉体が人生である」といつもは観念的なことをいうこの男がわりきって言っておりました。やはり、肉体、身体が弱いとダメですね。もう少し年をとった人になりますと、やはり水を運ぶ重労働とか、食糧探しに出かけるなどの身体の負担が大きく、名古屋方面の知人のもとに避難した人もおりました。皆さんも普段から歩いて足を鍛えておかないと、イザという時へバリますからご忠告しておきます。

ともかく交通機関はすべて駄目、バスも地下鉄も駄目、歩くしかない。私の家は新神戸駅の近くですから、三ノ宮から片道三十分、往復一時間かかります。あちこちの様子をテレビで見ますと、好奇心一杯ですから、三ノ宮がひどいとか、六甲道駅がひどいとか見ますと、そこを見に、写真機を持って行くわけです。歩いて行かんといかんわけで、あちこちへずいぶん歩いて惨状をみてきました。今日はバスで来ましたが、六甲道がここですね（地図の説明）森南町、ここはひどいです。ここから芦屋にかけてひどいんです。今日来る時に初めて見ました。友人が芦屋にいますね、二階建ての家を去年建て直して、一階にガレージを作ったんです。一階のガレージが

ペシャンコになって、二、三日、車中ですごしたそうですが、結局彼は鳴門に家があるものですから、そちらへ帰っております。芦屋の古い日本建ての家は、全部とっていきくらいつぶれておりますな。私も方々歩きまわって見てきたんですが、結局、一番被害が多いのは、日本家屋ですね。新しい家はいいでしようが、古い日本家屋はどこへ行ってもやられています。一方は新しい家屋でピンピンして建っているのに、隣の日本家屋の古い家が倒れている状況を、随分見ました。申し遅れましたが、私の家は渡辺君の近くで、割に地盤の良い所でしたが、家自体は壁にヒビが入りわれたりしましたが、何とか住める状態になっております。瓦が全部ダメですね。費用がいくら位かかるのかビクビクしているのですが、大変です。

水は足で運べばどうにかなりましたが、食糧は自分で手に入れなければならぬので買出しにも行きました。買出しは神戸のマーケットはダメで、一時間も二時間も並んで、ちよつとしか買えませんでした。それで一週間位経ちまして、新神戸駅からの地下鉄が開通しましたので、谷上迄行きました。谷上に行きますと六甲山の北側になり、被害がなく市場があるんです。谷上には大勢の人が来ていました。神戸の人がリュックを持ちましてね、そういう所でやはり食糧を手に入れましたが、渡辺さんなんか大変でしたでしょう。

市へは救難物資がとどいているということですが、私たちへは市からは何も供給してくれない。新神戸駅の近くに「ファミリー」という看板をかかげた外人のグループが、キャンパステントを

設営しまして、そこで物を供給してくれました。パン、にぎりめし、弁当等、物は日本の物なんですよ。キリスト教団の人達ですが、外人なんです。教団が資金援助をしているのかもわかりませんが、そういう所の人達に助けられました。日本の仏教団体は何をしていたかと、先日家へ坊さんが来たので聞いてみたのです。その坊さんは、浄土宗なんですけど、お寺には避難してきた人達をおいております、と言っておりました。ああいうことになりましたと外国のキリスト教は強いですね。今でもやっています。外国人は少なくなりまして、日本人の関係の人達がかなりいろんな事をやっています。まだまだ避難している人達はおりますし、雲中小学校や、三宮、二宮の避難所に来てもらっていますね。キリスト教というのは愛の精神と言いますか、非常によくやってくれているようです。

この髭ですか。当時、水がもつたいたいんですから毎朝髭を剃らず、のぼしているんです。シャクにさわった記念にどうか、思い出にどうか。もう少しのびれば床屋に行きまして、形をそろえたいと思っています。これだけは震災の思い出として残しておきたいと思えます。

下川氏追話

私は技術屋（造船）ですので、技術に関して少しお話させていただきますと、今度の地震の強さは、震源地、中心地でマグニチュード7.6とかいことですが、我々の感ずる震度は三宮で7な

んですね。これまで震度7というのはなかったというふうに聞いています。加速度ですが、水平加速度八〇〇ギヤルと、これもこれまでにない数字で設計基準をこえるのだそうです。東大の教授をしておられた三高の先輩の鶴戸口さんから手紙をもらったんですが、鶴戸口さんは、耐震構造の大家で、神戸地震について調べておられ、これが原子力発電地帯でおこった場合、原子力発電は水平二〇〇〇ギヤルで設計されているから大丈夫だということを言っておられます。

問題は上下動で、八〇〇ギヤルの水平に対し、一・五倍の上下があったということが判かり、いろんな構造物は、水平だけでなく上下動も考えねばならないというようなことを言われているようです。三宮のビル街は震度7の激震でひどいものです。私は佐世保の空襲、長崎の原爆のあとをみっていますが、今度のはタチがわるい。ビルが傾いたり、途中の階でガックリ座屈して、押しつぶされている。これでは建て直すまえに、取りこわさなければならぬ。無駄な日時と、金がかかるわけだ。神戸は今その無駄な仕事の真最中です。

阪神高速道路も美事に倒れましたね。今そこをバスで通ってきましたが、やっと解体してかたづけ終わった所です。復旧はいつになるかわからないといっていますね。あれはT型の構造で、一本脚で立っている。三高の友人の早川精君、彼は道路公団につとめ神高速道路の工事を担当した筈です。その彼からの見舞の電話をもらったときに「T型はトップヘビーで、造船屋は安定が悪いといつてさけるのだが」というと、彼は「二本脚にすると安定はよいが、車線がへる。一本

脚なら四車線で経済的に有利、という主張が採用された」という。

技術家として、技術と経済とのバランスは難しい問題です。

ところで話はちがうが、私は井垣君にある小冊子をおくった。その内容の一部を彼が紹介せよというので、暫く時間をいただきたい。その前に、あの忌しい日から十日程経った頃、今日は水が足りるか、食べる物があるかということだけを考える空虚な毎日の連続に嫌気がさし、何かをしなければという気持になった。そして書齋のなかのパソコンを見るうちに、よくぞこれが無事に残ってくれたものだと思うと共に、これに被災の体験を打ちこもうという意欲が猛然とわいてきたわけです。そうしてキーボードに向って、今まで話してきたようなことを打ちこんでいくと、A4で十数枚のものがまとまった。これを「神戸大地震体験記」と題して、友人の方々に送ったわけだ。その中の、あの混乱期に感じた行政への不満を、二、三のべておきたい。

(一) まず、対策のおくれだ。政府が自衛隊の早期出動を要請したら、被害や死傷者の数が増え、減ったのではないかとの声がある。

先日テレビで見ると、消防士が「あの家の下で家族が埋まっている。助けてくれ」という声が沢山あったけど、手が足りなくて助けられなかったと、男の消防士が泣いているのです。これが、もし自衛隊が直後に入ってくれていましたら、恐らく何千の人達が生き埋めから助け

られたと思うんです。何故自衛隊が遅くなったかと申しますと、村山内閣が自衛隊の出勤を要請しなかったことなんです。村山うじは社会党の党首であり、曾て自衛隊を否定した人だ。そういう人が首相になって、自分は自衛隊の最高指令官であるという自覚と、参軍に命令を発するという気概があつたかどうか、疑問ですね。

(二) 今度の被害は、復旧に十兆円の費用がかかるというのですね。今、国会中ですが、今度の予算でもって、どの程度カバー出来るかわからないのですが、そのために税金を増やすとか、赤字国債を発行するというのではなくて、税金の使い道の決まっているものを流用、転用することが大事だと思うのです。これは日経にも書いていましたが、村山内閣で決まりました農家にウルグアイ・ランドの自由米対策として、六兆円の金をまわすのをへらし、神戸の復興、並びに今後の耐震研究等に振り向けたらどうだろうか。又、もう一つに新幹線、新幹線の復旧は急を要するんですが、これに対して非常に金が掛るということに対し、一方では青森の方に新幹線を作るなど、整備新幹線なんて、急がなくてよいような事に、今や税金をつかおうとしているんです。そういう予算をストップして、関西の予算にまわしたらどうかと考えております。

もう一つ、アメリカと約束して、六百兆の公共投資をすることになっています。これなんか、今すぐ使わなくても、一時、一年間止めておいてその内の百分の一の六兆円を震災対策

にまわす、これなんか、一年おくても大して日本のこれからの公共利用に影響がないんです。これは私の意見ではなく、誰か被災者がテレビで言っていました。小里とかいう大臣が、それはいい考えだから閣議に計ろうと言っていたのですが、どうもさっぱり進みませんね。被災者の一人として、もっと阪神間の人のために、政府が考えてくれたらいいんじゃないかと思います。

そんなこと感じました。

(元川崎重工業㈱)

吉田 忠良(昭15文甲)

先程から神戸の方々のお話で、詳しく、微に入り細に亘ったご報告がありまして、全く共通する部分が殆んどでございます。従って、私の周辺の状況についてということで、断片的なお話しか出来ませんが、そうさせて頂きたいと思えます。

今、私の住んでおります所は、六甲の山ふもとを、ちょっと上った所の、苦楽園の三番町と申しまして、車に無縁な私には坂道を歩いて上ると言うちょっと不便な所です。三十年程前に木造のモルタルの家を建てまして、今まで住んできておりました。幸いに被害の方は、家屋倒壊という事は、全くございませんでして、部分的にヒビが入ったり、外のモルタルが少し崩れたとい

う程度で、こんなものは全般の状況からいいますと、誠に微々たるものだといいことで、非常に喜んでいるような状態でございます。芦屋・西宮周辺でも似たような木造家屋の殆んどが倒れておりますのを見ますと、築後三十年の私の家も大きく崩れても当り前ではなかったかと考えます。幸いとはいいながら何故だろうかなと、私自身なりに考えてみますと、十年程前に一部ですが改造いたしましたので、あるいは、そういう事が基礎的な面で役に立って、助かったのかなとも思われます。もうひとつは、私に地震や、地質層に関する知識があるわけではございませんので、素人判断なんです、断層となにかの関係があったのではと考えています。私の家の敷地はその四面の内、三面まで亀裂が入っております。特に後の方は、石垣を積んだガケの上に建っておる状態になりますので、その石垣に亀裂が入り、大きな石が一つ落ちてきました。玄関の周辺も、コンクリートをかけた石段が十二、三段程あるのですが、この階段にかなりの亀裂が入りました。それから西隣りの家との境のフェンスのブロックは全部倒れてしまい、もう一方の東隣りとの間は、金属プレスの板をつなげたフェンスになっていますが、これも何分にも三十年経過しておりますので、倒壊は免れましたが、根元の埋め込みの部分がサビで折れ、傾いております。又、裏側のガケの手前に小さな納屋を建てておったんですが、ここは隆起しまして、後の石垣にもたれかかって、ドアの開閉も出来ない状態になっております。このように私の場合は家屋よりも、むしろ土地の方がかなり影響を受けたのではなからうかと思われれます。つい近所

を歩いてみましても、殆んど亀裂のないお家もあれば、かなりの崩壊や亀裂のお家もありさまざまです。私の場合は今申し上げたように、地面の周辺には亀裂が生じたものの、運良く家の真下にその層がなかったのかも知れないなどと思っております。

さて、家の中の家財道具類は、申す迄もなく滅茶苦茶で、倒れるべきものは倒れ、毀れるべきものは毀れ、足の踏み場もなく、どこから手をつけようかと、暫く茫然自失でした。

生活面では、当日と二、三日は当座の食糧と水貰いに、坂道を下って家内と二人で毎日半日ばかりで大童でした。景色の良さに惑わされて高地に住んだ事と、車の運転が出来ない歎きを味わった次第です。

ライフラインの復旧状況は、先ず電気は、地震の直後二時間程で送電されましたので、情報などは刻明に知ることが出来ました。

水道も西宮市の中では、山地にありますので、幸いにも昔は市の水道ではなくて、別の水源から引かれています関係か、比較的早くて、十日目位から出てほっとしました。

ガスの復旧が遅れておったことが、やっぱり一番悩みの種でした。丁度五十日目の「啓蟄の日」だったと、記憶しておりますが、やっと復旧いたしました。周辺を見てみますと、まだまだガスはかなり遅れている所が多いようでございます。風呂に入れないということが、最初から最後まで迄残る悩みだったので。週に何回か、不定期と混乱の多い交通機関をつなぎながら、知人に

聞いて大阪の彼の地此の地の風呂屋に通いました。丁度一カ月程経った頃でしたか、私宅からは山道なので、歩きますと、下りで三十分、上りで四十分程はかかるのですが、芦屋市の岩園町という町がございまして、その小学校が避難場所になっておりました関係上、自衛隊の風呂が出来たということで、地域も何も関係ないだろうと、テクテク山から降りて行ってそのお風呂に入りに行きました。見てみますと、岩園小学校の校庭に沢山の装甲トラックが駐まっています、その横腹に「第二師団・旭川師団」と大きく書いてあります。北海道からはるばるやってきて、こうして我々を世話してくれているのかなあと思うと、胸がジーンとしました。お蔭で一日置きか二日置き位に、その風呂に行くのが楽しみだったのと同時に、遠い北海道から来てくれている人達のサービスで、我々こうして救われているのだろうということをその時つくづく感じました。それからもう一つガスの復旧につきましたもですね、私共の周辺は、復旧する十日前位から土を掘り起こして皆さんがガスの工事に来てくれたのですが、その車を見ると、全部「東京ガス」と書いてあったんです。ああ、ここにも東京から関東から来てくれているんだと、つぶさに体験しまして、やはり遠隔地からこうして助け合うことが、いかに、我々罹災者の心に救いと力づけを与えてくれるか、「東京ガス」「旭川師団」などという文字を見ますと、現実に困っているさなかの事だけに如何に心暖まる思いだったかという事を体験いたしました。

幸いにも私達の場合は、被災者とは言えない軽微なもので、不幸中にも大きな幸いだったと思

います。その後芦屋や神戸三ノ宮方面に二、三回用事があり行って来ました。テレビ等では克明に報道されておりますが、和風建築の旧家の殆んどが壊滅に近い状態であるということに驚いています。又地域による被害差のあること、私の家の近隣の場合でも被害は様々でございます。これは先に申しました、目に見えない地下の断層との関わりが、被害の大小に場所によって大きく影響しているのではなからうかというふうに実感いたしました。

まことにとりとめもなく、身辺のことにつきましての、断片的で補足的なご報告になりましたが、以上の通りでございます。ご静聴ありがとうございます。(元三井物産、元ワコースチール機)

池田 斎夫(昭15文甲)

私共のクラスで、阪神間におりましたのは五名でございます。私はその中の一人で西宮市下大市西町という所でございます。阪急で行きますと、今津線に門戸厄神という所がございまして、駅の手前で一七一号線と阪急の今津線が交差しています。さらに門戸厄神と甲東園の間で、新幹線が阪急の今津線と交差しておりますが、いづれも架橋が地震で落ちてしまいました。我が家は丁度その中間に位置し、震度七に近い場所でございます。後で聞きますと、地震というのは震源地から活断層に沿って走り、震源地と最後に抜ける辺りが、最も震度が高いんだそうです。丁度

その抜ける辺りに位置していたのではないかと思えます。先程からいろいろ論理的にも渡辺さんその他が、ご説明になりましたし、私は一番最後ですので、ただ実際に直面した感じだけを申し上げたいと思います。

当日の朝方五時四十何分ですか、まだ周囲が真暗ですので、私もまだ布団の中で寝ておりました。突然地震が襲いまして、最初はよく熟睡していたので、皆さんよくおっしやる直下型がどうのこうのというのは、よくわからないんですけれども、気が付きましたら横揺れの南北に揺れがひどかったように思います。私は絶対に関西は地震がないものという先入感がありましたし、阪神間は非常に住みよい所ということで、ついに住み家と決めたんですけれども、どうもそれにしではひどい地震だなあと感じておりました。そのうちにだんだんひどくなってまいりまして「これはタダごとではない」と思い、そのうちにミシミシと大きな音を出しますし、てっきり家が潰れるんではないかと観念しました。

それでもまだ、まさか兵庫県が震源地とは思いませんでした、私の中学生の頃に淀川地震帯という言葉聞いた覚えがあり、これは大阪、京都辺りが震源地ではなからうかと思ひまして、此処で、こんなひどいものなら、大阪はどんなものかというようなことを思いながら、息をのんでじっとこらえておりました。

地震の直前、家内が隣に寝ておりました、トイレに行こうと思って床から出て、私共は二階に

寝ておりますから、下に降りようとした時に地震が起こったのです。同時に、私共の周囲は洋服ダンスとか整理ダンスとかに囲まれておりまして、それが一斉に倒れてきたのでした。倒れた時は知らなかったんです。その瞬間は地震のショックの方が大きくて、よく分からなかったんです。家内に「とにかく布団の中に入れてもぐっていろ」と言ったのですが、「布団の上にダンスが倒れているものですから、布団の中へ入れません」というのです。中に入れないのです。まだ朝方は非常に寒いものですからブルブル震えておりました。丁度ダンスの上に毛布の箱など積んでおりましたので、それらも倒れてきておりましたので、家内はそれから毛布をひっぱり出して、その毛布をかぶってそれにくるまって、終るまで待つておりました。後になって、もしトイレに行く途中で地震が起きたら、階段から転げ落ちたか、周囲の壁が落ちてましたから、トイレの中に入ったままドアが開かなかったか、いろいろと考えますと、不幸中の幸いであつたと思います。

揺れが少し治まりましたから、家内に懐中電灯はないかと言いました、近くにあつたのを持ってまいりましたので様子を見ようと、私が起き上がろうとしたのですが、起き上がれないのですね。何故だろうと思いましたが、重いのです。見ますと、洋服ダンスが私の上に乗っ掛かっておりました。それからどうにかして、這い出しました。懐中電灯の明り位では、暗いものでさっぱり分からないのです。起き出しまして、多少衣服をまといまして、二階の窓を開けてみましたら、裏の家なんかひん曲っている始末です。これは大変だ、家は大丈夫だろうかと思ひまして、外へ

出てみましたんですけれども、無事に玄関のドアが開きましたから、外に出ることが出来ました。近所の人達も出ておりまして、ザワザワと騒いでいます。皆、震源地はどこだろうかと言っているのです。そんなことで動転し、その日は一日中、家の中で、台所まで行く通路を作ったり、片づけたりするのに夢中でした。昼飯も、晩飯も、全く食べずに夕方になりました。息子夫婦は、阪急今津線の西側のマンションに住んでおり、日頃至近距離でスープの冷めない理想的な格好だと思っておりましたが、地震の直後も飛んで来てくれました。私共の無事を確かめたうえ、自分達の所も大変ですから一旦自分達のマンションへひき揚げました。

夕方近くになり、暗くなって来ますと、非常に心細く、息子達が、マンションに来るように言ってくれましたので、マンションに行きました。そこに三週間ばかりおりました。私の方は停電で、三、四日電気がつきませんでした。マンションの方は電気がついていてるんです。テレビなんかも写っていますし、ここは別天地のように思いました。ガスも出ていますし、と言いましても、マンションですから、途中の管に溜っているのが何時間かしら出たらしいのです。まだ電気がつくだけでした。息子のマンションに三週間おりまして、そこでやはり、一番困った事は、皆さんおっしゃるように、水でした。水がないという事は、いかに悲惨かということを感じました。水ももらいにバケツを下げて行くのですけど、最初の頃は、市の方でも給水車というものの手配がありません。近所のどこかに井戸水ももらいに行くのです。中でも一番困ったのが、

トイレの水でした。あれには飲む水の何倍か要るわけですね。そしてマンションの屋上には、必ず水槽があるわけですが、それが地震と共に落ちまして、マンションの通路が水びたしになって、その水がエレベーター室に入り、エレベーターも止まるという状態でした。そのうちに市の給水車が給水場所を決めまして来てくれるようになりました。そこへ息子が自転車にバケツを乗せてもらいに行きました。とても老夫婦にとっては水の重さが大変でした。たまたま息子が高校の教師をしておりまして、交通機関が杜絶し、学校が休校になりましたので、二〜三週間の間、殆んど水汲みに追われておりました。私は昼間は家に通いながら足の踏み場もない家の内部の片づけに追われました。夜になるとマンションに帰って、息子達と一緒に生活したんですけれど、一カ月程経ってから家の片づけに来ていて、トイレに入ると瀬戸物のタンクがあり、その中に水を貯めておくのですが、ある日、空っぽのタンクの中に、水が一杯になっていますので、誰が入れたのだろうかと思つて、水道栓をひねってみると、ジャーと水が出ました。節分の頃だったと思いますが、飛び上がって喜びました。水が出る分だけ、逆にマンションより私の家の方の条件が良くなりました。

今度はマンションから若い者達が移って来まして、一緒に生活することになったのですが、それは良かったのですが、逆にマンションが市の査定では「全壊」という赤紙を貼られてしましました。二百世帯位入居しているので、大恐慌を来たし、管理人に聞きますと、残っている人達は

10%位と言うのですね。他の人達は、一応親類縁者を頼って何処かへ行っているのです。そんな状態で、赤紙が貼られたら、市側には、強制退去の権限はないわけですから、入るのは自分の勝手でありますが、責任は負いませんと書いてあるのです。息子達はそんな所には危険なので住んでられないから同居させてくれと言うものですから、家で同居することになりました。家の中は荷物の整理も出来てないのに、そこへ、もう一世帯の荷物が入るわけですから、あちらこちらに分散して預かってもらったりしまして、一部屋開けてやらねばならず、いろいろ考えましたが、止むを得ず押し入れの容積と同じ程度の容積のヨド物置を買いました庭に置き、押し入れの雑物を全部その中に入れて一部屋空けることが出来ました。

それにしても家自体は、建築家に見てもらいますと「半壊」の査定ではありますが、土台に支柱がしつかりのっているので倒壊の心配はなく、修理をすれば住めるということで、今修理に入っています。何より先に、屋根瓦の全面葺替えと浴室の修理に着手しなければということでした。他は日数が多少かかって住むことに支障はなく、住みながら修理したらよいという状態でございました。

いろいろ体験しましたことで水不足という状態は、非常に苦しいことでして、文化生活に水が無いという悲惨さを、本当に身に浸みて感じました。水が出てガスが出ないと、風呂には入れません。ガスは三月十日頃には使えましたでしょうか。西宮市でも90%位復旧していても、まだ

私の家周辺は使用出来ませんで、それだけ、ひどい被害だったと言えるわけです。向う三軒両隣りは全部解体しなければならず、毎日ホコリだらけになっておりました。二カ月程してから漸く風呂に入れました。散髪に行こうかと思つてました矢先に地震が起りましたので、年初以来散髪にも行けませんでした。近所の散髪屋さんも、全タガスが使えませんでしたので休業しているのです。北口の方で散髪してくれることを聞き、九日に行つてまいりました。

人間というものは、風呂に必ずしも入らなくても、慣れっ子になりまして、ホームレスの気持がよく分かるようになっておりました。二カ月振りで風呂に入った時は夢心地でした。

その他に感じたことですが、周囲を見ましても、立派な瓦葺きの古い日本家屋が地震には弱く、古い旧家が多くやられております。これからの家は軽い屋根のプレハブに限ると思ひました。結局軽いのが強いと思ひました。地震に対してですが痛感した次第です。

(元三和銀行)